

2020 年度秋季大会（岡山商科大学）の記録

岡山商科大学 田中勝次

2020 年度秋季全国大会は、日本金融学会にとって最初の試みの下で開催された大会でありました。それは、開催校が地方の社会科学系に特化した中小規模大学であること、そして、コロナ禍の下において中央大学で開催予定であった春季全国大会が中止を余儀なくされましたが、理事会の英断によりオンライン開催での大会として実施されたことです。この意味において、本全国大会は、日本金融学会 80 周年を迎える全国大会の運営における新たなる方向性を模索する機会を提供することができた大会であったと思われまます。

2018 年に、当時、日本金融学会の会長であった地主敏樹先生が岡山にお越しになり、2020 年度秋季全国大会を岡山商科大学での開催を考えている旨のお話をいただきました。その際に、地主会長から、「日本金融学会の秋季全国大会は、これまで国公立大学や地方の比較的規模の大きな大学で開催されてきましたが、今後、地方の開催校における負担をできる限りさせないよう形態で開催できるように理事会で検討している。」旨の話が出されました。早速、この話を学長および事務局長に報告した結果、快諾を得られました。

大会のプログラム委員会委員長は、神戸大学の家森信善先生にお願いいたしました。家森先生とは神戸大学の藤田正寛先生の同門であったことから、是非とも、お引き受けをいただくことができました。本大会が何事もなく盛況な開催を終えることができましたのは、何よりも家森先生をはじめとするプログラム委員会の先生方のご尽力によるものと感謝するとともにお礼申し上げます。

さて、本大会のテーマとして 2 つを提案させていただきました。

第 1 は、中央銀行デジタル通貨発行に関する議論です。この議論を選択した背景としては、1840 年代の通貨論争を彷彿させ、情報化社会の下での「貨幣の再定義」を行う必要があるからです。このテーマに関しては、大会 1 日目の特別講演（座長：地主敏樹先生、副座長：宮尾龍蔵先生）として三木谷浩史様（楽天株式会社代表取締役会長兼社長）に「デジタルライゼーションで加速する社会変革」というテーマで講演をいただきました。三木谷様は故三木谷良一神戸大学名誉教授（元日本金融学会会長）のご子息であったこともあり、地主先生と宮尾龍蔵先生（神戸大学）に講演の依頼をお願いしてご登場いただきました。三木谷様にはご多忙のなか、そして、地主先生と宮尾先生にはご苦勞をおかけいたしましたこと、心からお礼申し上げます。なお、藤原秀夫先生（元日本金融学会会長）にはテーマ設定等に関してご助言をいただきました。

第 2 は、自然災害と地域活性化という問題です。それは、2018 年（平成 30 年）7 月の西日本豪雨に伴う河川氾濫により、とりわけ岡山県倉敷市真備町は甚大な被害をうけ、その復興において地域金融機関の果たす役割が非常に大きくなっているからです。このテーマに関しては、大会 2 日目の会長講演（座長：私、副座長：井尻裕之先生）として地主会長が「自

然災害と経済」というテーマで講演をいただきました。その後、共通論題（座長：小野有人先生、副座長：鎮目雅人先生）として「大規模災害と経済」というテーマで、慶応義塾大学の久保敏弘先生、学習院大学の細野薫先生、慶應義塾大学の柳瀬典由先生を報告者として、そして、みずほ総合研究所の中尾武彦先生を討論者として議論をいただきました。大規模災害と経済の問題をテーマとした知見が真備町の地域活性化を模索する過程で少なからず役立つことができれば幸いです。

さらに、本大会のプログラムに関する座長および副座長は、プログラム委員会で人選していただきました。座長および副座長の先生方には、プログラム通りの時間調整を担っていただき、心からお礼申し上げます。また、座長および副座長の下でご報告をいただきました先生方およびその討論者としてディスカッションしていただきました先生方にもお礼申し上げます。

最後に、閉会挨拶の中で家森信善プログラム委員長から本大会の総括をしていただき無事に大会を終えることができました。また、大会運営の裏舞台でご支援をいただき、オンライン開催の下でトラブルもなく予定通りの進行ができましたのも株式会社アステム様のお陰でありお礼申し上げます。今回はオンライン開催を余儀なくされましたが、岡山商科大学は2025年度に新校舎の建設が完了いたしますので、将来的に対面による開催が実現できるとすれば、地主敏樹先生の思いを実現することができるかもしれません。

（家森信善「学会だより」『月刊金融ジャーナル』2020年12月号,pp.104-105より引用）

文責：田中勝次（岡山商科大学、大会準備委員会委員長）